

平成23年度 三島村教育委員会の事務の点検及び評価の結果について
(お知らせ)

このことについて、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条及び「三島村教育委員会の行政組織等に関する規則」第10条第2号に基づき、平成23年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を実施いたしました。

その内容及び結果は、下記のとおりでありましたのでお知らせします。

記

1 点検・評価の目的

- (1) 行政の説明責任の徹底
- (2) 効率的で質の高い行政の実現
- (3) 成果重視の行政の実現

2 点検・評価の対象とした施策・事業

5施策・4事業（本村の教育行政推進上の重点課題として、1学校教育の充実、2生涯学習の充実、3文化財保護・文化活動の振興、4スポーツ活動の充実の4つが挙げられる。これらの課題に係る主な施策・事業を対象とした。）

3 点検・評価の過程

- (1) 一次評価（教育委員会事務局）
- (2) 学識経験者（評価委員）の知見活用
- (3) 二次評価（教育委員会）
- (4) 議会報告及び結果の公表

4 評価委員（次の2名に委嘱）

瀬戸口弘信氏（元三島村教育長）・原園修二氏（現鹿児島市立伊敷中学校長）

5 点検・評価の結果

自己点検として実施。評価基準は次の5段階とした。

5＝良い 4＝概ね良い 3＝ふつう 2＝やや不十分 1＝問題あり

重点課題	施策・事業	結果
1 学校教育の充実	(1) 学力向上に向けた教育の充実（施策1）	3.6
	ア 少人数・複式学習指導法の研究・実践	(3.7)
	イ 鹿児島チャレンジ・ベーシックの活用	(3.7)
	ウ ICTを活用した授業の工夫・実践	(3.4)
	エ 一校一運動の取組の推進	(3.4)

1	学校教育の充実	(2)	「心の教育」の充実（施策2）		4. 0
			ア	家庭・地域と連携した人間関係づくり	(3. 9)
			イ	自然や地域の特性を活かした体験活動	(4. 1)
		(3)	しおかぜ留学制度事業（事業1）		3. 9
			ア	しおかぜ留学生の確保	(3. 7)
			イ	留学生への適切な対応、里親との連携	(4. 1)
		(4)	健康・安全の充実（施策3）		3. 9
			ア	危険予知・回避の能力を高める実践指導	(3. 4)
			イ	水難事故防止指導の徹底	(4. 3)
		(5)	地域に根ざした特色ある学校の実現（施策4）		3. 8
ア	地域の文化拠点として積極的な情報発信		(3. 6)		
イ	交流学习等の機会確保と自主性の育成		(4. 0)		
2	生涯学習の充実	(1)	「玉手箱の本に親しむ運動」推進事業（事業2）		4. 2
			ア	社会教育施設の図書資料・設備等の充実	(4. 6)
			イ	住民の読書への意欲向上	(3. 7)
			ウ	子どもの読書活動推進の一助	(4. 4)
		(2)	家庭教育・成人教育の充実（施策5）		4. 0
ア	家庭教育学級、高齢者学級学習内容充実	(4. 0)			
3	文化財保護・文化活動の振興	(1)	村内遺跡発掘調査事業（事業3）		3. 9
			ア	埋蔵文化財発掘・調査活動の実施	(4. 6)
			イ	生涯学習や学校教育における活用	(3. 3)
4	スポーツ活動の充実	(1)	第11回村民スポ・レク大会開催事業（事業4）		4. 4
			ア	連帯と協調、健康で明るい人・地域づくり	(4. 4)

6 次年度の課題等

1	学校教育に関すること	<p>○ 「しおかぜ留学制度」事業 本年度から定数を20人とし、実親負担も5,000円減の35,000円としたが、応募者が少ない状況にある。情報発信については、ホームページのほか県内の教育委員会訪問、市電・市バスへの広告掲載も実施した。今後のPRを検討課題としたい。</p> <p>○ 学校間の連携を深める方策の検討が必要である。</p> <p>○ 学力向上策について、学校間での情報交流が必要である。</p> <p>○ ICT活用の実践研究を行う。</p> <p>※ ICT=コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報コミュニケーション技術のこと。</p>
2	学校の施設・設備に関すること	<p>○ 本年度、竹島へき地集会室新築、三島小・中学校の改修工事等を実施したが、他の3校も調査し、必要であれば改修工事まで実施したい。教職員住宅についても同様である。</p> <p>○ 遊具（鉄棒を含む。）の腐食・損壊があり、計画的に順次整備していく。</p> <p>○ 校務用パソコン等「情報セキュリティ対策」の徹底。</p> <p>○ 施設・設備だけでなく、備品・消耗品に至るまでコスト意識をもう少し高く持つべきである。</p>

<p>3 生涯学習に関すること（文化財保護等を含む。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 郷土芸能等の記録・保存、子どもたちへの伝承について <ul style="list-style-type: none"> ① 各地区とも高齢化が進み、伝承に苦慮している。ある学校では、高齢者の指導のもと、文化祭・運動会の種目に、踊り・歌などを取り入れている。今後、全校ともこのような体制ができるよう地区との協議も必要である。 ② 映像資料（特にVHS）の光ディスク等への変換。 ③ 公開と保護のバランスに配慮する。 ○ 文化財に対する認識を深め、愛護しようという意欲を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ① 村民が地域の文化財について学ぶ機会を設定する。 ② 国指定の天然記念物や、埋蔵文化財で発見された遺跡・遺物等の活用・保護の推進を図る。 ○ 「玉手箱の本に親しむ運動」による施設の充実により、新しい生涯学習の学びの場、住民相互の交流の場としての活用促進を期待したい。
<p>4 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒木御所跡に昔の家を再現（再築）し、長浜家、安徳天皇に関する展示品も多くあるが、保護・管理が十分でなく、貴重な展示品等の損傷が懸念される。

7 評価委員の意見及び提言

(1) 感想

平成 23 年度かなり多忙を極めたのではないかと。5 施策 4 事業については、それぞれ工夫がなされ、計画的・効果的に実施されている。しおかげ留学制度事業、玉手箱の本に親しむ運動、黒島の天然記念物指定に係ること等、きりがなく進めてもらい、どれも充実していることを高く評価したい。

(2) 児童生徒の活動と今後の学習指導

春の祭典（県中学校合唱コンクール）では、金賞を受賞とのことで力をつけている。学校の維持・存続に向けても力を入れており、今後のよい結果に結びつくのではないかと考える。

最近、三島村・各学校のホームページを開いてみたが、ジャンベ活動、ICT、天然記念物の植生のことなど、様々な取組をしている。しかし、三島村の誇る文化・歴史・自然が、学校教育の中に、どんなふうに取り入れられているのか気になった。三島村は、興味を持たせるもの、やったら楽しいだろうと思わせるもの、つまり学習の動機づけになるものの環境に恵まれている。

例えば、国語科では有吉佐和子、社会科歴史では俊寛、音楽ではジャンベなど。これらをうまく教科学習の動機づけに取り込むことができるのではないかと。また、これらをうまく教育課程に位置づけることにより、村教委のめざす「三島ならではの教育」「三島らしい教育」がさらに実現可能となっていくのではないかと。

(3) 読書と ICT によるへき地性の克服

本年度三島村では、図書をたくさん購入し、住民のみなさんの読書のニーズに応える取組を行った。自分も三島中学校に勤務していたとき、有吉佐和子の『私は忘れない』（文庫本）をみんなに買って読書会を実施した。また、上鹿する度に文庫本を買って帰り、生徒の読書に供した。なにがしかの自由に使えるお金があれば、子どもたちの読みたい本をぜひ手に入れたい。

「読書」と「ICT」、これには国境もへき地もない。だから、十分に整備してほしいと思う。そして、学習の成果や地域・学校に関して創り上げたものがあれば、どんどん発信してほしい。映画『私は忘れない』も DVD になっており、これも使いながら

三島村の宣伝をするというのもいいのではないか。

(4) 教職員の研修と児童生徒の活動

伊敷中学校では、現在、先生たちの研修をどんどん受け入れている。上鹿の折に、余裕日があれば、受入体制が整っているので、いつでもいいからぜひ研修に来てほしい。また、児童生徒に関しては、姉妹校をつくればどうか。その学校と、可能なかぎり子どもたち同士の交流をさせたいものである。全国的に姉妹校締結は行われているので、調べてみるといい。

『三島村秘史』は、読んでみるととてもおもしろい。ちょっとした記事を1ページでも切り取ってオープンにしたらは、三島村への興味・関心を大いに高めることにつながるのではないか。ますますの活性化を期待する気持ち大である。